

別表1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

薬学 研究 科	<p>【薬学研究科】</p> <p>薬学研究科では、医療科学・生命科学分野を担う人材を必要とする社会的要請に応えるため、高い倫理観と先端的で高度な専門的知識・技能を備えた生命科学・創薬科学分野における研究者・技術者の育成、薬剤師の資格を持って臨床薬学教育・研究が遂行できる人材、ならびに専門薬剤師の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、</p> <p>(1) 高い倫理観と薬学関連分野の幅広い知識を修得させる教育の展開、(2) 専門領域における最先端の知識・技能と国際的な発信能力を修得させる教育の推進とします。</p>
	<p>〔薬学専攻〕</p> <p>薬学研究科薬学専攻（博士課程）では、高い倫理観を持ち医療薬学分野における最新の専門的知識・技能・態度を備えた薬剤師で、医療現場から求められる問題の解決や医薬品の適正使用を中心に、先端的で高度な研究を企画・遂行できる研究者、さらに高度な先端医療を担い教育指導できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 医療人としての強い責任感と高い倫理性から研究を見つめる能力の修得を目指した教育の推進、(2) 薬学関連分野の幅広い知識を修得させる教育の展開、(3) 課題発見能力と問題解決能力を修得させる教育の推進、(4) 国際的な視野を涵養する教育の展開とします。</p>
	<p>〔薬科学専攻〕</p> <p>薬学研究科薬科学専攻（修士課程・博士後期課程）では、高い倫理観と先端的で高度な専門的知識・技能を備えた生命科学・創薬科学分野における研究者、技術者および教育者の育成、臨床試験データを解析し、かつ臨床試験計画を立案できる研究者の育成、さらに戦略的かつ国際的な医薬品開発企画を立案できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 高い倫理観と薬学関連分野の幅広い知識を修得させる教育の推進、(2) 専門領域における最先端の知識・技能の修得を目指した教育の推進、(3) 豊富な演習・研究を通じた柔軟で論理的な思考力と表現力を養成する教育の展開、(4) 国際的な視野を涵養する教育の展開とします。</p>
獣医 学系 研究 科	<p>【獣医学系研究科】</p> <p>獣医学系研究科では、社会における諸問題を獣医学とその周辺領域の面から解決するため、動物と獣医療、公衆衛生、動物生産と食料利用、食料生産基盤の整備、環境の創造等の教育・研究を通じて、国際的に通用する独創的な研究者、高度専門職業人、提言や技術提供ができる指導者となる人材の養成を目的とします。</p>
	<p>〔獣医学専攻〕</p> <p>獣医学系研究科獣医学専攻（博士課程）では、未知の領域へ挑戦する精神を備え、高度な技術を駆使し国際的に通用する独創的な研究者及び社会への提言や技術提供ができる指導者等の人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 公衆衛生（人獣共通感染症対策、安全安心な食の供給）、(2) 高度獣医療（動物の福祉向上、技術のヒトへの応用）、(3) 基礎獣医学（生命現象の解明）、(4) ヒトと動物が共存できる環境の構築とします。</p>
	<p>〔動物資源科学専攻〕</p> <p>獣医学系研究科動物資源科学専攻（修士課程・博士後期課程）では、動物に関連する教育研究領域の多様化や高度化を鑑み、目前にある問題を解決するだけでなく、自ら問題を提起する力を備えた柔軟な高度専門職業人の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 動物能力の積極的な活用、(2) 動物福祉への格段の配慮、(3) 人と動物の関係や周辺環境の向上、(4) 動物性食品の安全性確保や機能性向上といった課題、(5) 農学分野と医学分野の積極的連携などの実践とします。</p>
	<p>〔生物環境科学専攻〕</p> <p>獣医学系研究科生物環境科学専攻（修士課程）では、高度な知識と問題解決能力ならびに豊かな人間性を備え、生態系の環境の保全・修復に関する提言や技術提供ができる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 自然環境と動植物の生息環境の実態把握、(2) 循環型社会の形成のための社会基盤の整備と保全・修復、(3) 動植物を含めた生態系保全、(4) 環境のモニタリングなど、生態系との調和や環境創造に関する知識と技術の修得とします。</p>
海洋 生 命 科 学 研 究 科	<p>【海洋生命科学専攻】</p> <p>海洋生命科学専攻（修士課程・博士後期課程）では、水産学諸分野で培われてきた伝統技術とともに最新の科学技術を駆使して、水産学に付託された生物資源管理や生息環境の保全等に関わる課題の本質を国際的な視野に立って解明することができる専門技術者・研究者を養成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、海洋生物資源を持続的にかつ高度に利用するために求められる基礎知識・技術・理論の修得とその応用力の養成とします。</p>
看護 学 研 究 科	<p>【看護学専攻】</p> <p>看護学研究科看護学専攻は、今日の社会的要請に先駆的に対応できる専門知識と問題解決能力を備え、看護の実践・教育・研究の場で活躍し、実践・教育・研究を通じて看護学の発展に寄与できる人材の育成を目的とします。</p>

理学 研究科	<p>【理学研究科】 理学研究科（修士課程・博士後期課程）では、分子科学・生物科学専攻が各々の基礎科学分野に立脚しつつ、融和を図ることにより、生命科学に関する幅広い知識と専門的な研究開発能力を有する研究者・高度専門技術者となる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 自然科学の基本原則に基づく実験技術、解析能力の修得、(2) 能動的な研究計画の立案、自立した研究遂行能力の育成、(3) 研究成果を社会に向け発信できる国際的なコミュニケーション能力の育成とします。</p>
	<p>〔分子科学専攻〕 理学研究科分子科学専攻（修士課程・博士後期課程）では、分子及び分子集合体の構造や性質を解析し設計できる能力を持ち、生命を含む幅広い現象を物理的・化学的視点から解く力を持った人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 物理的及び化学的原理に基づく計測技術の実践的な教授及び解析能力の育成、(2) 物質の設計、合成、機能評価と合成法の開発・改良ができる能力の育成、(3) 国際的なコミュニケーション能力を有し、研究成果を社会に向けて発信できる能力の育成とします。</p>
	<p>〔生物科学専攻〕 理学研究科生物科学専攻（修士課程・博士後期課程）では、生命科学分野のさらなる発展を担うため、生物学や基礎医学等の広範な分野で活躍できる知識や高い研究技能、並びに科学的思考能力を備えた人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 先端の専門的研究に必要な知識と研究技能の修得、(2) 生命科学の知識や技術に基づいて生命活動を分子レベルで解明する能力の育成、(3) 国際的なコミュニケーション能力を有し、研究成果を社会に向けて発信できる能力の育成とします。</p>
医療系 研究科	<p>【医療系研究科】 医療系研究科では、基礎医学と臨床医学との密接な連携を可能にするプロジェクト教育体制を布くとともに、人間性についての洞察力を持つ研究者や全人的医療を志向する専門職を養成するため、医療人間科学分野の科目を必修としています。さらに、専門職の受験資格を取得できるコースも設置しています。これらの取り組みを通じて、時代のニーズにかなった科学的洞察力を持つ高度専門職・教育者・研究者を養成することを教育の目的としています。</p>
	<p>〔医科学専攻〕 医療系研究科医科学専攻（修士課程）では、先進的な医科学の知識と技術を備えた教育・研究者及びチーム医療に貢献できる高度専門職業人を養成するため、(1) 臨床医科学のみならず基礎医科学の視点からも問題を解決できる能力、(2) 多様な臨床課題を分析し、チーム医療の下で解決に導くことができる能力 (3) 医療倫理に関する高い見識に基づいた医療を実践できる能力の涵養を教育の目的としています。</p>
	<p>〔医学専攻〕 医療系研究科医学専攻（博士課程）では、倫理に裏付けされた学識と独創的な研究能力を持つ教育・研究者及び先進医療を担う高度専門医療人を養成するため、(1) 基礎医学及び臨床医学の先端的研究に基づいた医療の発展に寄与できる能力、(2) チームの中心となって多様な臨床課題を解決し先進医療を担うことができる能力、(3) 人間性に対する深い洞察力により全人的医療を実践できる能力の涵養を教育の目的としています。</p>
感染制御 科学府	<p>【感染制御科学専攻】 感染制御科学府感染制御科学専攻（修士課程・博士後期課程）では、感染症と関連重要疾病の制御及び創薬に関する教育と研究を行うため、学際的な体制と高度技術を備え、特に予防と治療法に焦点をあてた学術研究と人材育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 病原微生物の感染機構及び感染症の病因・病態の解明、(2) ゲノム解析に基づく感染症の診断・予防・治療の標的分子の解明、(3) 先端工学を応用した診断・予防・治療方法の確立、(4) 微生物・植物等の天然物由来生物活性物質の探索、(5) 有機化学合成等を利用した構造活性相関の解明と予防・治療薬の創製、(6) 感染制御に関わる調査研究とします。</p>